

こころで

見る

奈良

もっともこと
知りたい
奈良6

■法隆寺と聖徳太子

今年は、法隆寺(正確には「法隆寺地域の仏教建造物」)が世界遺産に登録されてから、25年になる。

1972年にユネスコの総会で採択された世界遺産条約を、日本がようやく批准したのは20年後の1992年のこと。先進国のなかでは一番遅かった。そしてその翌年、さっそく法隆寺と姫路城が世界文化遺産、屋久島と白神山地が世界自然遺産に登録された。

法隆寺は607年に推古天皇と聖徳太子が完成させた。しかし、670年に雷火で焼失すると、聖徳太子と背の高さが等しい釈迦如来像(聖徳太子像ともいえる)を本尊とする、聖徳太子信仰の寺として再建されて今日に至る。

聖徳太子の「十七条憲法」が素晴らしい。

たとえば、第十条には「人みな心あり」とある。たとえば、第十条には「人みな心あり」とある。人によって考えが違う。それが当たり前なのだから、自分と考えが違っていることで、他者を怒ってはならない。「我、必ずしも聖(ひじり)にあらず。彼、必ずしも愚(おろか)にあらず」共にこれ凡夫(ほんぶ)のみ。

すべての人は、聖ではなく、そうかと言って愚でもない。誰もが凡夫に過ぎない。凡夫の自覚があれば、むやみに人を批判したり怒ったりはしないだろう。人を批判するのは、自分が正しいと思っっているからである。

「人みな心あり」「共にこれ凡夫のみ」は、20年前から私の座右の銘になっている。



聖徳太子の産湯を汲んだという井戸(春井)の石碑

第八条には、公務員は朝早く出勤して夜遅く帰れ、とある。労働時間を減らそうとする現代の風潮には合わないが、みんなのための公務は限りなくあり、終日働いてもすべてを片付けられない、という考え方には共感できる。

第十七条には、大事なことは、必ずみんなで相談して決めるようにとあり、現代の言葉のようだ。

十七条憲法は聖徳太子が作ったものではないとも言われるが、それなら、誰が作ったのか。「人みな心あり」「共にこれ凡夫のみ」と言えるような人を、聖徳太子以外には思いつかない。

聖徳太子は「世間虚仮(せけんこけ)、唯仏是真(ゆいぶつぜしん)」とも言っていた。この世のこととはすべていつわりそらごとで、仏だけが真実である。こんなことを思い始めたら、政治の世界では生きられない。

「人みな心あり」「共にこれ凡夫のみ」「世間虚仮、唯仏是真」は、聖徳太子に近づいたための必須のキーワードだと思う。

文・西山 厚

(帝塚山大学文化創造学科教授)

○10回シリーズ 次回は8月9日(木)掲載予定

PR

〈企画・制作〉産経新聞社メディア営業局